



平成 27 年度・第 34 回九州学生選手権競技 第 14 回九州女子学生選手権競技

競技報告 (2015/6.4)

写真と記事 : M. Kikutake

男子は長田真矩（日本経済大3年）が初優勝

女子は饒平名まなみ（琉球大3年）が2年ぶり2度目の栄冠



第 34 回九州学生・第 14 回九州女子学生の両選手権競技は6月4日、福岡県大牟田市の有明カントリークラブ(男子 6723 ㌦、女子 6184 ㌦、パー72)で行われ、男子は通算イーブンパーの 144 で長田真矩（日本経済大3年）が初優勝。女子は、饒平名まなみ（沖縄・琉球大3年）が4オーバー、76 で2年ぶり2度目の優勝を飾った。

また、競技では久貝（くがい）英（長崎国際大2年）が8番（パー5）でアルバトロスを達成したほか、西山大揮（日本経済大4年）が17番（パー3）でホールインワンを達成し、記録づくめの大会となった。

選手権は従来、男女とも2日間全員 36HS で行われていたが、近年の参加者減から今年から、男子は1日 36HS、女子は同 18HS に短縮して実施された。

今回、男子は62人が出場(欠場3人)。第1Rでは1アンダーの71で回った長田と尾田優貴（東海大九州3年）の2人が首位に並び、1打差72で西山、さらに2打差74で与儀聖夏（琉球大2年）ら5人がつける接戦となった。第2Rは3バーディー、4ボギーの73で回った長田が、74の尾田を1打差でかわし、勝利を手にした。2位は尾田で、通算2オーバー、146の3位タイに西山と大塚陸斗（東海大九州1年）の2人。さらに1打差、5位に新城北斗（日本経済大2年）が入った。

女子選手権は8人が参加。饒平名は前半1バーディー、1ボギーの36とまとめて折り返したあと、後半は7番（パー4）でショットをまげて7をたたくなど1ボギー、1トリプルボギー。しかし、後続もスコアが伸びず、2位に4打差をつけて快勝した。8オーバー、80の2位タイは内田百合菜（長崎国際大1年）と玉寄妃那子（日本経済大1年）の2人だった。

男女の優勝者は日本学生・女子学生選手権への出場権

優勝した男子の長田と女子の饒平名は茨城県の大利根 CC で行われる第 69 回日本学生選手権(8月25～28日)、第 52 回日本女子学生選手権(8月26～28日)への出場権を得た。



「もっとパターに磨きをかけて」

日本学生選手権ベスト5が目標 長田正矩

1日36ホールの特長。1ラウンド目で尾田優貴とともに首位に立った長田だったが、午後からの第2ラウンドではライバルたちの追い上げを1打差でかわし、逃げ切った。ジュニア時代を通じて、自身、連盟主催競技初タイトルだ。

首位タイでの第2R。出だしの1番からいきなり3パットのボギー。さらには5番パー3でも3パットのボギーを重ね、「さすがにちょっとヤバいと思った」と長田だ。しかし、ここからねじを巻き直し、6、8番でバーディーを奪って振り出しに戻すと、後半も手堅く1バーディー、2ボギーとまとめた。終わってみれば、1イーグル、1バーディー、3ボギー、1ダブルボギーと出入りの激しいゴルフだった尾田に1打差をつけて逃げ切った。

福岡県は北九州の門司出身。福岡市の第一高校から日経大に進学。167cm、54kgとアスリートとしては小柄だが、オフだけでなくシーズンも体幹トレを中心に組み込んでパワーアップを図った結果、「飛距離が10～15㍎伸びたがそれ以上に、強い球が打てるようになった」と言う長田だ。

昨年の日本学生選手権、初日70で6位タイと好スタートを切ったが、2日目からスコアを乱し、結果は41位。今年はその雪辱にかける気持ち強い。試合までの2か月。「今日のように3パットしてたんじゃ…パターを自信を持って打てるようにしっかり練習し、ベスト5には入りたい」と目標を据えた。

「ゴルフが安定してきた」

3年生の今季にかける 饒平名まなみ

「絶好調ではないけど、ゴルフが安定してきました」。今季、九州大学連盟主催競技で2勝しており、この日の女子学生選手権で3勝目だ。

「パープレーか1オーバーで回るつもりだった」と言う。スタートのインでは1バーディー、1ボギーと順調に折り返したものの、アウトに入って4番でボギーのあと7番では第1打が左の木の根に止まり2打は出すだけ。4打で乗せたグリーンでも3パットしてトリプル。「あの7番を除けば」と悔やむホールになった。

しかし、今や九州の女子学生では第一人者だ。この大会、1年生で初優勝し、昨年は初日首位ながら2日目に逆転され2位。今年は、「以前は気持ちに波があったけど、自分でも精神力が強くなったと思う」と言うように、他を寄せ付けずに優勝を勝ち取った。

沖縄・本部の出身。名護高から国立琉球大観光産業科学部に進学。「プロを目指すか、大学院に行くか、まだ考え中」と言い、いずれにしても、3年生の今年、「精一杯やってみて進路を決めようと思っている」と言う。その最大の目標は何とんでもなく、2度目の全日本女子学生。前回（1年の時）はあえなく予選落ち。全国の強豪にどこまで通用するか、楽しみではある。

《記録達成者》

アルバトロスを記録した

久貝（くがい）英選手（長崎国際大2年）



○…8番は502㍎のパー5。久貝は残り190㍎の第2打で5番アイアンを握った。やや打ちおろし。「ライは左足下がりがりだった」という。ショットは会心の当たり。久貝は「イーグルチャンスにつけた」とグリーンに向かった。ところが、グリーンに自分のボールは見えなかった。「周囲を探してカップをのぞくと、入っていた」という。

ホールインワンの経験もない。それをホールインワンよりはるかに難しいという初めてのアルバトロス。直前にダブルボギー、ボギーを打っていただけに、「よし、取り返した」と思ったものの、この日のゴルフは78をたたき、結局は12位タイ。「ショットは悪くなかったんだけど…」とは久貝だった。

長崎は五島の出身。長崎市内の明誠高から長崎国際大に進学し、将来はプロ志望という。



ホールインワンを記録した 西山大揮選手（日本経済大4年）

○…最終盤の17番でホールインワン。190ヤードのパー3。打ち下ろしのホールで「風がややフォロー」。西山は7番アイアンを振り切った。ボールはピンまっしぐらに飛び、ワンバウンドしてカップに消えた。

同組の尾田とともに優勝争いの一角に食い込み、1打ビハインドでの第2Rもこの17番で尾田を逆転、スコアをイーブンにしていた。ところが、「まだ運があると思った」矢先の最終18番でまさかの3オン、3パットのダブルボギー。前ホールの2打とともに初優勝の文字も消え、「最後の最後に…」と唇をかんだ西山だ。

北海道の北海学園高出身。将来はプロを目指しており、「年間を通じてラウンドができるから」と日本経済大学に進学してきた。エースはプライベートで1度あり、自身2度目。しかし、大学最後の学生選手権で、思い出に残るだろう経験をした西山だった。